



日本統計学会 会報 2025.4.30 No. 203

発行— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—川崎 能典(理事長) / 伴 正隆(庶務理事)
小西 葉子(広報理事) / 浦沢 聡士(広報委員)
塚本 高浩(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|---|
| 1. 巻頭随筆：統計学とデータサイエンスの関係
……………椎名 洋… 1 | 6. 理事会・委員会報告（2025年2月4日開催）…10 |
| 2. 2025年度統計関連学会連合大会の進捗状況の報告
……………川崎能典・佐藤忠彦… 3 | 7. 社員総会報告（2025年3月7日開催）…14 |
| 3. 第19回日本統計学会春季集会の報告
……………川崎能典・佐藤忠彦・牧本直樹… 4 | 8. 被選代議員会報告…15 |
| 4. 統計検定成績優秀者…照井伸彦・川崎能典… 6 | 9. 博士論文・修士論文の紹介…15 |
| 5. 統計検定合格者の声…照井伸彦・川崎能典… 7 | 10. 新刊紹介…17 |
| | 11. JSS Research Series in Statisticsからの新刊情報…17 |
| | 12. 学会事務局から…18 |
| | 13. 投稿のお願い…18 |

1. 統計学とデータサイエンスの関係

椎名 洋（大妻女子大学データサイエンス学部）

グーグル検索でその単語がどの程度検索されたかを過去に遡って調べる機能（「Google Trends」）があるのをご存知でしょうか。「統計学」と「データサイエンス」という言葉をいれて、過去10年ほどの検索回数（対象地域は世界すべて）を比較してみました（2025年2月14日実施）。2024年4月（月間平均）の「データサイエンス」の検索回数を100とした相対指標でみると、2015年3月で両者の指標は、「統計学」が52、「データサイエンス」が9、2025年1月でそれぞれ69と83です。「統計学」の検索回数は、この10年間でほぼ横ばいですが、「データサイエンス」の方は、基本的に増える一方で、2022年ごろからは、「統計学」より上位にきます。（ちなみに2025年2月の検索回数で、「統計学」、「データサイエンス」は、「AI」の100分の1以下です。）

「データサイエンス」という言葉が、新聞・雑誌・TV・SNS・YouTubeといった様々な媒体で

頻繁に登場するようになった一方で、その定義は人によって様々であり、またかなりのスピードで変化しつつあります。「統計学」の方が学問領域を指す言葉として古くから使われているせいで、人々の間でより共通した内包や外延を持っていて、時間的にもその変化がゆるやかに感じます。

とりあえずここでは、「データサイエンス」をデータから価値を生み出すための科学・技術といった意味で定義すると、「統計学」は「データサイエンス」の中でどういう位置をしめるのでしょうか。統計分野の研究者の間では、統計学は学問領域としてはデータサイエンスの一部、あるいはコアの部分として考えられることが多いように思いますが、世間一般の感覚では恐らくこの両者の関係はかなり曖昧な状態にあると思います。一般の人にデータサイエンスの中での統計学の立ち位置や果たすべき役割を理解してもらい、これは統計学者、統計学会にとって大変重要なことか

と思いますが、ここまでデータサイエンスやAIに対して世間の耳目が向けられている現在は、統計学の重要性を宣伝しておくまたとない機会であることは間違いありません。

ちなみに、筆者が今年の三月まで在籍していた滋賀大学データサイエンス学部（2017年4月にスタートした日本で最初のデータサイエンス学部）では、データの流れに沿って、「データの収集・加工」が主に情報学関連のプロセス、「データの分析」が主に統計学関連のプロセス、最後の「価値創造」が社会実装のプロセスという説明を、高校生や一般社会人にしていました。実際は、実験計画や標本調査のようにデータの収集に関連した分野も統計学にはありますし、分析前の前処理（例えば欠損値の扱い）や社会実装（例えば、実装後の統計的な評価）においても統計学は大きな役割を果たしますが、一般の方に分かりやすく説明することも統計学の認知のためには重要かと思えます。

一般に新たな学問領域が勃興してきた際に、考えるべきことがいくつか生じます。一つが、上で「データサイエンス」について述べてたようなこと、つまりその領域の定義づけや既存の学問領域（例えば「統計学」と）の関係という問題です。もう一つの重要な問題（課題）は、どう体系化して教育・研究内容を整理していくかという点です。ここでは、教育の体系化に関して重要と思われることを書いておこうと思います。

数理・データサイエンスに関しては、「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム（現在は、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム）」のもとで2020年にリテラシーレベルのモデルカリキュラム（翌年には応用基礎レベルのモデルカリキュラム）が発表され、2021年からは文部科学省による認定制度が始まっています。ご存じの通り、小・中等教育では学習指導要領で教えるべきことが規定されていますが、大学教育のレベルで何を教えるべきかについ

て、ある程度の標準化・体系化がなされ、さらには認定制度まである学問分野は非常に珍しいかと思えます。また、情報処理学会でも「カリキュラム標準 J17」を2017年に策定しており、情報系の学部を母体にして生まれたデータサイエンス系の学部では、こちらに則ったカリキュラム構成を行っているところもあります。

こうした中で、多くの大学でデータサイエンス系学部が生まれていますが、カリキュラムと教育スタッフの構成は様々です。経済・経営、医療・看護等の特定領域の知識をからめながらデータサイエンスの手法を学ぶタイプと、情報学・統計学といった手法に関わる学問をカリキュラムの中心に置くタイプに二分することができるかと思いますが、後者の中でも、情報学の専門家と統計学の専門家の割合は、大学によって様々です。正確に調べた訳ではありませんが、恐らく情報学の専門家の割合の方が高い大学の方が多数であると思えます。これには、やはりデータサイエンス系学部の母体となるべき学部として、情報系の学部は沢山存在したのに、統計系の学部は日本には存在しなくなったことが大きく影響しているかと思えます。統計系の教員が不足している現状を解決するために、統計数理研究所を中核施設として全国30以上の大学が「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」を形成して、修士レベルの統計学の授業ができる教員を育てるプロジェクトが進行していることは、前号の巻頭随筆で中西寛子先生からご紹介いただいたところですが、まだまだ統計学教員が不足している現状は続いています。

一方、高校レベルでも、「情報Ⅰ」が高校で必須科目となり、新しい指導要領のもとで、数学教科の統計学に関連する単元が充実してきています。こうした世代に対する大学でのデータサイエンス教育は、普遍化と高度化が同時進行していくと考えられますが、これによって、世界的に大きく出遅れた日本のDX化が推進されていることが期待されています。

2. 2025年度統計関連学会連合大会の進捗状況の報告

川崎 能典（日本統計学会理事長）
佐藤 忠彦（大会委員会委員長）

2025年度統計関連学会連合大会（関西大学千里山キャンパスで開催予定）について進捗をご報告申し上げます。既に、2025年2月16日付で第二報が発出されていますが、重要な点に限定してご報告いたします。なお、本年4月下旬に発出予定の第三報は、発出され次第、メーリングリストにてご報告させていただく予定です。

1. 2025年度統計関連学会連合大会のポータルサイトについて

2025年度統計関連学会連合大会のポータルサイトは、以下 URL に公開されています。

<http://www.jfssa.jp/meeting/>

連合大会に関する情報や各種申し込み等は、上記 URL が入り口になります。適宜ご参照いただければと思います。

2. その他の準備状況の報告（第二報からの抜粋）

2.1 コンペティションセッションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです。学会会場にて、対面にて実施されます。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2025年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む）、または、講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に学会会場にて口頭発表する方です。なお、コンペティション対象者は、講演申込時に主催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、入会申請中の方も認めます。プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し、会員（入会申請中）でないことが判明した場合は、コンペティションへのエントリー

を取り消しますので、十分ご注意ください。コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり、プログラムを組むのが難しくなっています。したがって、今年度は申込順でコンペティション参加件数を制限することがあります。審査は、講演報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います。

2.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月7日にチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。また、ソフトウェアセッションについても計画しています。詳細は、2025年4月下旬頃発行予定の第三報でお知らせいたします。

2.3 保育託児関係

2025年度大会では保育・託児室（無料、要予約、先着順）を開室する予定で進んでおります。ぜひ、参加者の積極的なご利用をお待ちしております。具体的な詳細は第三報以降でお伝え致します。

2.4 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込

一般講演や事前参加の申込、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締切を2025年5月中旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および事前参加申込の締切を設定します。確定した期日や具体的な企画は、第三報でお知らせいたします。

3. 第19回日本統計学会春季集会の報告

川崎 能典 (日本統計学会理事長)
佐藤 忠彦 (企画・行事委員長)
牧本 直樹 (実行委員長)

第19回日本統計学会春季集会が2025年3月8日(土)に筑波大学東京キャンパス文教校舎(東京都文京区)を会場に、一部の講演を除いては遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催されました。招待講演による4つの企画セッションと1つの基調講演はハイブリッド方式で、ポスターセッションは対面方式のみでそれぞれ実施しました。

午前は、134教室で開会式開催の後、2つの会場に分かれ、2セッションが並行して実施されました。134教室では「マーケティングのデータサイエンス:現代的課題と新展開(オーガナイザー:照井伸彦氏, 東京理科大学)」, 119教室では「諸科学における統計学的アプローチ(オーガナイザー:奥野彰文氏, 三分一史和氏, 矢野恵佑氏, (以上3氏) 統計数理研究所, 横山雅之氏, 核融合科学研究所)」がそれぞれ実施されました。

ポスターセッションは、学生ラウンジを会場に、昼休みのコアタイムを第1部、第2部に分けて開催され、大学院生、若手研究者による計32件の発表がありました。122教室には協賛企業1社による展示も行われました。

午後は、同じく134教室、119教室の2つの会場で2セッションが並行して実施されました。134教室では「項目反応理論の世界(オーガナイザー:宇都雅輝氏, 電気通信大学, 持橋大地氏, 統計数理研究所)」, 119教室では「産学連携によるデータサイエンスの高度専門人材育成について(オーガナイザー:笛田薫氏, 滋賀大学)」がそれぞれ実施されました。

午後後半は、国際関係担当理事鎌谷研吾氏(統計数理研究所)のオーガナイズによる企画セッションとなり、来日されたChristian P. Robert氏(Université Paris Dauphine-PSL and University of

Warwick)による“Bayesian privacy from a decision-theoretic viewpoint”と題する基調講演が、134教室で行われました。

最後に、ポスターセッション表彰式と閉会式が行われました。優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は大田浩史氏(東京大学)、司馬博文氏(総合研究大学院大学)、平木大智氏(東京大学)の3名に、学生優秀発表賞は前田煌氏(電気通信大学)、奥土康太氏(慶應義塾大学)の2名に授与され、照井伸彦会長より表彰されました。また、樋口知之氏(一般財団法人統計質保証推進協会統計検定センター長)より、優秀発表賞と学生優秀発表賞の受賞者に対して統計検定センター長賞が贈呈されることが告知されました(賞状・副賞は統計検定センターから後日送付)。なお、今年の春季集会の参加登録者は現地参加163名、オンライン参加登録65名の計228名でした。

今回の春季集会も多くの方の発表者と参加者に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。本集会を成功裏に終えることができたのは、開催校の筑波大学の関係者の方々を始め、所掌外の業務にも協力頂いた学会理事・委員の皆様、急な依頼にもかかわらずポスターセッションの表彰審査をお引き受けいただいた会員の皆様のおかげです。末筆ながら感謝申し上げる次第です。

春季集会 URL :

<https://jss2025spring.ywstat.jp/>

**ポスターセッション優秀発表賞
受賞のことば**

大田 浩史 (東京大学)

この度は優秀発表賞に選出いただき、幸甚に存じます。PhDの指導教員であったMing Xie先

生 (Rutgers 大学) のご指導, および PD 受け入れ先の今泉允聡先生との日々の有意義な議論に深く感謝します。

本発表では, 主にプライバシー保護目的で置換行列を作用させた線形回帰モデルについて取扱い, 興味のあるパラメータ空間が離散的かつサンプルサイズに依存して組み合わせ的に巨大になる場合における, 有限標本下の統計的推測理論の結果を与えました。従来の頻度論的方法論では不可能であった離散パラメータの推論に対して, Repro Samples Method という最新の技術を駆使し, 置換の存在に関する検定や回帰係数の selective inference タイプの信頼集合に関する理論保証を与えました。

より一般にこのような離散・非数値パラメータをもつ統計モデルは「非正則モデル」と呼ばれ, 中心極限定理に基づく古典的かつ標準的な不確実性の定量化手法が利用できません。正則でないものは全て非正則であり, このようなシチュエーションは現代的な統計・機械学習モデルにおいては頻出しています。関連する統計的推測理論はまだまだ未解明なことが多いため, 今後も同分野の研究に邁進したい所存です。

受賞のことば

司馬 博文 (総合研究大学院大学)

この度は榮譽と伝統のある賞をいただき, 大変嬉しく思います。その存続と審査に尽力くださった方々に深く感謝申し上げます。指導教員の鎌谷研吾先生をはじめ, 支えてくださった皆様にも感謝申し上げます。

私の発表は区分確定的マルコフ過程を用いた新しいモンテカルロ法に関するものでした。マルコフ連鎖によるモンテカルロ法は今日のベイズ統計で広く利用されています。本手法も統計家の新たな武器として前線に立つことが期待されています。

しかしこの新手法はまだまだ揺籃期にあり, 利用可能なパッケージが少ないことも問題でした。そこで広く統計研究者と実務家に使える自動化さ



授賞式の様子：左より, 照井伸彦会長, 大田浩史氏, 司馬博文氏, 平木大智氏, 川崎能典理事長, 樋口知之統計検定センター長

れたパッケージを作ろうと, 最初の一步を踏み出した中で生じた課題とその解決法を発表いたしました。今回評価していただいたことを励みに, 今後とも本手法を理論・実装の両面から研究しながら, コミュニティの発展にも貢献していきたいと心を新たにしております。

受賞のことば

平木 大智 (東京大学大学院)

この度は, 優秀発表賞にご選出いただき, 誠に光栄に存じます。大会運営に携わる皆様をはじめ, ご審査いただいた先生方, そして日頃よりご指導いただいている大森裕浩先生ならびに共著者の Chib 先生に, 心より感謝申し上げます。

本研究では, stochastic volatility in mean モデルという非線形の状態空間モデルに対し, パラメータやボラティリティを効率的にベイズ推定する手法を提案しました。本手法は, 線形ガウス型状態空間モデルという最も基本的で推定が容易なモデルで近似することで, 効率的なサンプリング方法の適用を可能とし, その結果, 広く用いられている手法と比べて数百倍の効率性を達成しました。

発表では, 多くの貴重なコメントやご助言をいただき, 大変有意義な機会となりました。今回の受賞を励みに, 今後も一層研究に邁進して参る所存です。

ポスターセッション学生優秀発表賞

受賞のことは

前田 煌（電気通信大学）

この度は、学生優秀発表賞という荣誉ある賞に選出していただき、誠にありがとうございます。大会の企画・運営の皆様、審査をしてくださった先生方に心より感謝いたします。また、これまで最も近い場所でご指導いただいた西山先生にも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後も先生のご期待に応えられるよう、引き続き精進してまいります。

本発表では、適応的勾配降下法を含んだ統一的な枠組みである適応的鏡像降下法を Wasserstein 空間に拡張し、従来の Euclid 空間と同様の理論的解析が可能となる手法を提案いたしました。これにより、分布最適化アルゴリズムを一貫した枠組みで記述できることが期待され、さらに新たなアルゴリズムの提案につながると考えられます。今回の受賞に恥じぬよう、今後も研究を一層深めてまいります。

受賞のことは

奥土 康太（慶應義塾大学）

この度は、学生優秀発表賞をいただき、大変光栄に存じます。本学会の運営にご尽力くださった関係者の皆様、審査をしていただいた先生方に心より感謝申し上げます。また、日頃より多くの先



授賞式の様子：左より、照井伸彦会長、前田煌氏、奥土康太氏、川崎能典理事長、樋口知之統計検定センター長

生方にご指導いただき、厚く御礼申し上げます。特に、指導教員的小林景先生には、研究の方向性や理論的な視点について貴重な助言をいただき、大変感謝しております。

本発表では、裾の重い入力を持つ二値分類問題における良性過適合の理論解析を行いました。特に、 α サブ指数分布に従う入力のもとで汎化誤差の上界を導出し、学習率の十分条件が裾の重さに依存することを明らかにしました。本研究の結果は、実データやニューラルネットワークの特徴量空間に見られる重い裾を持つ分布においても、良性過適合が成立することを示唆しています。

ポスター発表では、多くの貴重なご意見をいただき、大変有意義な議論ができました。今回の受賞を励みに、今後も研究に邁進してまいります。

4. 統計検定成績優秀者

照井 伸彦（日本統計学会会長）

川崎 能典（日本統計学会理事長）

2024年11月17日に統計検定が行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です（敬称略）。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

統計検定1級「統計数理」

最優秀成績賞（S）：池内謙祐、内田裕太、大澤裕一、小野塚智也、齋藤康太郎、笹川瑚南、塩田倫平、菅原拳、杉山颯、杉山拓登、煤賀結斗、曾川大暉、高木俊彰、田中仁一郎、種村賢飛、張高楽、中島拓巳、中村光希、西田鴻志、野元颯、宮脇優、森翔汰、森雄大、渡邊空一翔、巖川恭佑

優秀成績賞 (A)：入江海地，梅原志和，大野颯斗，奥井洸稀，金井大知，川瀬寛将，川野裕大，木太久稜，久保知也，黒岩亮，楯本賢志，鈴木航平，竹内太郎，武田玲志，竹ノ谷悠，玉田涉，永里和哉，中澤芳揮，中島大登，中森聡，野口英成，藤本悠星，牧勇翔，松中宏樹，村井圭輝，村田達哉，村田匡哉，安良興，結城尚道，李鐘翰

統計検定1級「統計応用」

最優秀成績賞 (S)：奥山広貴，金古翔，狩野湧誠，笹川瑚南，佐竹響，塩田倫平，四方紘太郎，鈴木海斗，曾川大暉，竹ノ谷悠，種村賢飛，恒川翔，鋒山凌也，牧勇翔，松井涼一郎，松中宏樹，宮脇優，村井圭輝，渡邊空一翔

優秀成績賞 (A)：安部哲，池内謙祐，井上貴博，内山聖一，江草翔，大澤裕一，大塚勇太，大

西弘記，大宮拓朝，奥井洸稀，鬼塚大輝，小野璃佑介，久保知也，熊澤淳史，駒田遥大，駒宮大介，佐々木徹，佐竹尚，菅野統哉，菅原拳，杉山拓登，鈴木航平，玉井慎太郎，玉川丈真，富濱毅，中澤芳揮，中村光希，西岡巧真，羽賀隆雄，福井雄己，伏下直哉，前川尚輝，松下剛士，水越明哉，山形陽生，山口智之，山田一翔，藤川恭佑

このうち，特に優秀な内容で満点を取得した方に「統計質保証推進協会 会長賞」を贈呈しています。公開に同意された方の氏名と所属を掲載します（敬称略）。

統計質保証推進協会 会長賞

統計検定1級「統計応用」

笹川瑚南（東京大学教養学部理科一類二年）

5. 統計検定合格者の声

照井 伸彦（日本統計学会会長）

川崎 能典（日本統計学会理事長）

統計検定1級「統計応用」

笹川 瑚南さん（東京大学教養学部理科一類二年）

「応用分野の勉強法」

受験動機などは数理の方で書かせていただいたので，そちらをご参照ください。まず，なぜ社会科学を選んだのかというところを軽く説明すると，進路選択の際，経済学部に行くことも考えるくらいにはデリバティブ・クオンツに興味があったこともあり，マクロ・ミクロ含めて経済学自体を何も知らなかったのですが，社会科学にすることにしました。結果的に進路は情報系に進んだので理工学分野で受ければよかったなと思います。

応用分野の勉強法についてですが，社会科学は一般的には勉強が難しいと言われてます。何より，合格体験であったり勉強法を調べても，ほとんど見つからないことがネックだと思います。そして，参考書も少ないことがあります。私は，計量経済学の本，効果検証法の本，時系列解析の

本，そして因果推論の本を読み，まず社会科学分野に関する統計の知見を深めることに専念しました。結果的に，時系列解析は解ける気がしなかったので本番でも避けることに決めていましたが，計量経済学と因果推論は学んでおいた方がいいと思います。

公式テキストと過去問を詰めていく中で，応用分野も結局は数理ができることが大前提という結論に自分の中でなり，数理の理解を深めることに専念したことがいのように作用したように思います。そして過去問の問題を見ていると公式テキストに載っている分野が大体網羅されていたので，応用分野は過去問を埋めていき，わからなかったところはひたすら調べるのが最短だと思います。

当日の感触としては過去問の時とはうって変わって，全部解けました。これもまた問題の取捨選択がうまくいったかなと思います。特に応用分野は地雷分野がわかりづらいので素早い判断が重

要だと感じました。何より最優秀賞とわかり、ホッとしました。結果的には社会科学で受けてよかったなと思います。

統計検定1級「統計応用」

松井 涼一郎さん（会社員）

「統計検定1級 全分野制覇」

本年は、統計応用の社会科学分野を受験し、最優秀成績賞をいただくことができました。また、私は今回が4年目の受験であり、統計検定1級の統計数理、統計応用の4分野すべてを制覇することができました。

社会科学は4分野の中で一番苦手な分野でした。本分野では、経済指数やサンプル抽出法、時系列解析、固定効果・変量効果モデルなどのかなり広い範囲が出題されるだけでなく、市場や経済動向に関する内容を背景としていることが多いため、理系脳の私にとっては取っつきづらかったです。

試験対策としては過去問演習をメインにしていますが、問題を解いて解説を読んで論理の流れを掴むだけでなく、関係ありそうな話題で統計的な解析について語られている記事や論文も目を通すようにしていました。そのおかげで、統計学と社会情勢の動向との強い繋がりを感じることができ、辛かった勉強が段々楽しく思えるようになってきました。従って、皆さんにはぜひ試験対策として問題を解くだけで終わらず、現実社会でどのように統計学が活用されているか、その結果何が分かったかなどについても調べてみてほしいです。

冒頭でも申し上げたように今回で統計検定1級の全分野合格を果たせましたが、これに4年もかけて取り組んだ理由はただ一つで「統計学を広く深く学びたいと思ったため」です。どの分野も大変勉強になり面白い内容を学ぶことができたため、大変有意義な4年間でした。ただし、これで統計学への学びは終えようと思いません。今後は新しいことを学ぶだけでなく、学んだ内容を社会にどのように貢献させていくかを仕事・プラ

イバートを通じて見つけていこうと思います。

統計検定1級「統計応用」

佐竹 尚さん（石川県立田鶴浜高等学校（講師））

「学ぶことの意味を教えてくれた統計検定」

定年退職後に統計検定1級の受験を開始、合格まで6年かかりました。

高校の看護専攻科で統計を教えていたことがあり、統計学の重要性を感じていましたが、自分が勉強して筆記試験を受けるのは久しぶりのことでした。

統計の本を買い込み、ネットでも調べて勉強しましたが、理解が深まらず苦戦しました。統計応用に合格できず諦めかけていましたが、高校生向けの教材を考えるようになってからモチベーションが上がりました。分かりやすい例を考えたり、実験したり、どうしたら生徒に分かるか考えることが、自分の理解を深めさせたのです。

専攻科向けの教材をRマークダウンで作成しました。高校生の理解を深めるには、シミュレーションが有効と考えたからです。自分の理解を深めるのにも役立ちました。モデルを設定し、シミュレーションを行うことで理解が深まったと思います。過去問も演習しましたが、理論だけでは実感が乏しいので、シミュレーションして確かめるようにしました。

ある段階まで理解が深まると、別々に理解していたものが1つにつながって見え始めました。学んだことが根っこでつながりだすと、学習がドリルではなく発見と感動に変わり、学習が面白くなりました。数学の勉強と同じで、基礎・基本が身に付くというのは、こういうことかもしれません。数学教員を40年もして今頃になって気づくのは恥ずかしいことですが、自分で新しいことを学ぶようになって初めて気づくことであるようです。

学び直しと言われますが、統計検定の勉強から得たものは知識だけではありません。困難な壁を乗り越え成長する喜び、学ぶということが人間にとってどのような精神的営みであるか、学ぶこと

の意味をあらためて知ることができました。

統計検定1級「統計数理」

笹川 瑚南さん(東京大学教養学部理科一類二年)

「勉強を通して作れた自分の「強み」が何よりの財産」

統計検定に興味を持ったきっかけは、大学の知り合いが一年生の時に合格をしていたことです。それと同時に、大学の講義で基礎統計をとり、その授業では2級レベルの内容ではありましたが、統計という分野が非常に興味深いこと、また応用数学が好きであったことから勉強を始めようと思いました。

大体2月から勉強を少しずつ始めましたが、当初の知識としては大学教養レベルの線形代数、微積分学がわかるくらいでした。まずは準1級の勉強から手をつけましたが、こちらのテキストはかなり範囲が広く絶望しかけました。実際にデータサイエンティストとして働くことになるとしたら重要であろう分野が入っていることを調べていくうちに知り、公式テキストを一周しました。そして1級の勉強に関してなのですが、みなさんご存知の久保川本の現代数理統計学の基礎を9章まで三周ほど読みつつ問題を一通り解きました。解説が詳しいわけではないので生成AIやネットを駆使して分かりやすく解説してくれている人を参考にしていました。完璧にする必要はないと思います。

公式テキストと過去問は何より大事なため何周もして、少なくとも数理に関してはテキストの範囲ではわからないところがないぞ、というレベルまでやり込みました。

世間一般の方を見ていると、実務はできるが数学的に苦労しているという方が多いように感じます。自分は知らない統計手法がどんどん出てくることに戸惑っており、まずは覚えることに苦労したので、数学面で苦労しているという方は線形代数のしっかりした本、例えば僕の場合、一年生の時に長谷川先生の本を熟読したのが効いていたと思います。

最後に感想としては、当日終わった後に普段よりできなかったので落ち込んだのですが、大問選択は最適化できたということもあり悔いなく終われました。勉強を通して自分の強みが作れたのでそのことが何よりの財産です。

統計検定1級「統計数理」

竹内 太郎さん(循環器内科医師)

「8年ぶりの受験」

私が統計検定1級統計数理の合格をいただいたのはこれが初めてではありません。前回の受験は8年前で、その際は当時の最年少合格賞をいただきました。8年間で最年少記録が次々と更新され、現在は中学生の合格者がおられることにはただただ驚きと敬意を表するばかりです。一度合格した試験に再度挑戦しようと考えたきっかけは、数理統計学の基礎知識の重要性を再認識したからです。

私は将来、日本においては医学部出身の研究者が非常に少ない医学統計学の領域で活躍したいと考えています。前回受験からの8年間、疫学・公衆衛生・循環器内科の領域を中心にデータ解析の経験は一定程度積ませていただきましたが、基盤となる数理的な側面が徐々に疎かになり、周囲の研究者との差別化を図ることができなくなりつつあることに強い危機感を感じていました。今回、統計検定合格を1つの目標として、数理統計学の基礎理論の学習を1から再度行うことにしました。

勉強を始めた当初は戸惑いの連続でした。試験の難易度が大きく変化していた上、参考書やウェブサイトが発達し受験者全体のレベルも飛躍的に上がっていました。試験勉強においては『データ解析のための数理統計入門』(共立出版)にターゲットを絞り、試験本番までに演習問題を4周程度解きました。試験1ヶ月前には統計検定1級統計数理の過去問を7~8割程度回答できるようになりました。統計検定1級の対策書籍としては『現代数理統計学の基礎』(共立出版)が有名ですが、合格を目指す上では『データ解析のための数

理統計入門』で十分事足りる印象でした。試験本番は時間配分に苦労しましたが、参考書の類題が複数出題されたことも幸いし、8年前逃した優秀成績賞をいただくことができました。今回の受験

を通じて得た知識や経験を、今後のより専門的な勉強や研究に活かしてあげることができればと考えています。

6. 理事会・委員会報告 (2025年2月4日開催)

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2025年2月4日(火曜日)

午後6時00分～午後6時45分

場所：統計数理研究所 D404

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom (ミーティング ID: 879 3767 1961)

理事の総数 14名 出席理事の数 14名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：照井伸彦会長、川崎能典理事長、伴正隆(庶務)、坂田綾香(庶務)、白石博(会計)、増田弘毅(JJSD)、原尚幸(会誌編集和文)、小西葉子(広報)、佐藤忠彦(大会/企画・行事)、鎌谷研吾(国際)、江村剛志(国際)、植木優夫(渉外)、瀬尾隆(渉外)、竹内光悦(教育)

(以上13名、括弧内は役割分担)

監事：大森裕浩、樋口知之、山下智志

第1議案 常設委員会における委員について

川崎理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員の交代が提案され、審議の結果、承認を得た。

第2議案 2025年度事業計画について

川崎理事長より、資料に基づき、2025年度事業計画の提案がなされ、審議の結果、承認を得た。

第3議案 2025年度予算について

川崎理事長より、2025年度予算の提案がなされ、白石会計理事により補足説明が行われた。審議の結果、承認された。

第4議案 社員総会招集の件

照井会長より、社員総会開催に関する提案がなされ、承認が得られた。

1. 日時 2025年6月7日(土) 午後1時30分から

2. 場所 東京理科大経営学部 5階会議室

3. 会議の目的事項

(1) 社員総会における通常の審議

第5議案 会員の入退会

川崎理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者の紹介がなされ、審議の結果、承認を得た。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2025年2月4日(火曜日)

午後6時45分～午後8時00分

場所：統計数理研究所 D404

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom (ミーティング ID: 879 3767 1961)

出席：理事14名、監事3名、委員0名、計17名

照井伸彦会長、川崎能典理事長、伴正隆(庶務)、坂田綾香(庶務)、白石博(会計)、増田弘毅(JJSD)、原尚幸(会誌編集和文)、小西葉子(広報)、佐藤忠彦(大会/企画・行事)、鎌谷研吾(国際)、江村剛志(国際)、植木優夫(渉外)、瀬尾隆(渉外)、竹内光悦(教育)、大森裕浩(監事)、樋口知之(監事)、山下智志(監事)

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

増田委員長より、JJSDの編集状況について報告がなされた。

2. 和文誌編集委員会

原委員長より、和文誌の編集状況について報告がなされた。

3. 大会委員会

佐藤委員長から、2025年度統計関連学会連合大会の準備状況について報告がなされた。

4. 企画・行事委員会

佐藤委員長から、第19回統計学会春季集会の運営につ

いて報告がなされた。

5. 庶務委員会

伴委員長から、学会サーバーのディスク容量確保についてと、各1件ずつの後援と協賛の承諾について報告がなされた。

・(後援) 統計数理研究所椿所長退任記念シンポジウム

主催：統計数理研究所

・(協賛) 日本オペレーションズ・リサーチ学会

2025年春季研究発表会・シンポジウム

主催：日本オペレーションズ・リサーチ学会

6. 広報委員会

小西委員長から会報202号について、報告がなされた。

7. 国際関係委員会

鎌谷委員長から、Young Scholar Session に関する合意について、さらに春季集会・連合大会における招聘予定について、報告がなされた。

8. 渉外委員会

植木委員長から JJSD 特集号でのオープンアクセス費用支援について報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長から、統計質保証推進協会の活動について報告がなされた。

10. 統計教育委員会

竹内委員長から、中高生スポーツデータ解析コンペティションなど活動報告がなされた。

11. その他

川崎理事長から、以下4点の説明がなされた。

・国立大学教育研究評価委員会等専門委員の候補者推薦の件(大学改革支援・学位授与機構)

・横幹連合時期役員候補推薦の件

・中村千春様ご逝去の件

・Springer との JJSD 契約更新について

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

なし

2. 和文誌編集委員会

なし

3. 大会委員会

なし

4. 企画・行事委員会

なし

5. 庶務委員会

なし

6. 広報委員会

なし

7. 国際関係委員会

なし

8. 渉外委員会

なし

9. 質保証委員会

なし

10. 統計教育委員会

なし

11. その他

・第4回 ISI 東京大会記念奨励賞対応について

樋口委員長 (ISI 東京大会記念基金運営委員会) より、ISI 基金奨励賞受賞者への賞金の前倒し支給について提案がなされ、承認された。

今後の予定

2025年3月7日(金) 午後6時00分

社員総会(オンライン)

2025年3月7日(金) 午後7時30分

被選代議員会(オンライン)

2025年3月8日(土)

日本統計学会春季集会(ハイブリッド)

2025年5月10日(土) 午後1時00分

理事会(ハイブリッド)

2025年6月7日(土) 午後1時30分

社員総会(ハイブリッド)

一般社団法人 日本統計学会

2025 年度事業計画

(2025.4.1～2026.3.31)

I. 出版編集事業

1. 和文誌の発行
和文誌 2 号[第 55 巻シリーズ]第 1 号(9 月)、第 2 号(3 月)]を発行する。
2. Japanese Journal of Statistics and Data Science の編集への参加・協力
3. 会報の発行
No.203 (4 月)、No.204 (7 月)、No.205 (10 月)、No.206 (1 月) を発行する。
4. 統計学に関わる書籍を刊行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 93 回大会の開催
2025 年 9 月 7 日～11 日の 5 日間(むつ市、関西大学千里山キャンパス)において開催する。統計関連学会連合大会の一環として開催する。
2. 春季集会の開催
2026 年 3 月上旬に第 20 回春季集会を開催する。
3. 研究分科会の活動
現在活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。

・統計教育分科会

・計量経済・計量ファイナンス分科会

・女性統計家・データサイエンティスト育成分科会

・スポーツデータサイエンス分科会

4. タイバーシティの推進

臨時委員会「多様性推進特別委員会」により、学会における多様性の推進に努める。

5. 統計関連学会連合の事業推進に協力する。

6. 国際学会、国際シンポジウムに協力する。

・台湾統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッションへの協力

7. 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。

8. 他の組織が行う賞選考に対して学会推薦を行う。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を会員等に授与する。

第 30 回日本統計学会賞

第 5 回日本統計学会中村隆英賞

第 21 回日本統計学会統計活動賞

- 第 21 回日本統計学会統計教育賞
- 第 19 回日本統計学会研究業績賞
- 第 18 回日本統計学会出版賞
- 第 39 回日本統計学会小川研究奨励賞
- 第 7 回細谷賞

2. 各種委員会の活動

- 年 1 回社員総会を開催する。
- 年 1 回社員懇談会を開催する。
- 年 4 回理事会を開催する。
- 年 1 回役員・代議員協議会を開催する。
- 年 1 回春季集会準備会議を開催する。
- その他の各種委員会を適宜、開催する。

3. 広報活動の充実

メールリストの使用やホームページの充実により、各種情報発信を促進する。
会員名簿を発行し、Web 会員名簿を更新する。
日本統計学会公式 Youtube チャンネルを通じて、講演動画を会員向けに配信する。

4. 入会者の拡大

春季集会等の機会を利用し、若手の研究者の拡大を促進する。
統計検定の合格者を対象とし、統計利用者の拡大を促進する。
会員限定の情報や講演動画の配信を行い、企業に所属する実務家も含めた多様な新規の入会者を拡大する。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

一般財団法人統計質保証推進協会が実施する「統計検定」の認定団体として、統計検定に関する書籍を刊行する。

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOC による統計学の講座を開講するとともに、講座に関わる書籍を刊行する。

3. 統計教育関連事業の推進

小中高および大学における統計教育に支援・協力するとともに、集会の開催や後援を行う。また統計教育人材育成に貢献する。また統計教育の重要性を発信する。

7. 社員総会報告（2025年3月7日開催）

一般社団法人 日本統計学会 社員総会

日時：2025年3月7日（金曜日）

午後6時00分～午後7時08分

場所：統計数理研究所 D404

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施
Zoom（ミーティング ID: 820 1265 4693）

出席者：照井伸彦会長、川崎能典理事長

出席代議員：會田雅人、青嶋誠、足立浩平、岩崎学、上野玄太、大森裕浩、加藤昇吾、狩野裕、鎌倉稔成、川崎茂、川崎能典、川野秀一、栗原考次、西郷浩、酒折文武、清水誠、瀬尾隆、高部勲、田畑耕治、椿広計、富澤貞男、西山慶彦、樋口知之、南美穂子、山下智志、山本義郎、美添泰人、渡辺美智子

オブザーバー：伴正隆、坂田綾香、白石博

冒頭、照井会長より定足数を満たしていることを確認ののち、開会宣言がなされ、オブザーバー3名の出席が承認された。照井会長より、議事録署名人として川野秀一、清水誠両代議員に依頼する旨説明があり、承認された。

審議事項

第1議案 研究分科会の設置期間延長に関する件

照井会長より、資料に基づき、2025年5月に終了予定である「スポーツデータサイエンス分科会」（主査：酒折文武）より設置期間延長の申請があったことが報告され、承認された。

第2議案 研究分科会主査交代に関する件

照井会長より、資料に基づき、「統計教育分科会」（主査：竹内光悦）の主査を深澤弘美会員に交代する申し出があったことが報告され、承認された。

第3議案 新しい分科会の提案に関する件

照井会長より、資料に基づき、小池祐太会員を主査とする統計サマーセミナー分科会（仮称）の新設について申請があったことが報告され、承認された。

報告事項（理事会報告）

1. 2025年度事業計画について

川崎理事長より、資料に基づき、2025年度事業計画について報告された。

2. 2025年度予算について

川崎理事長より、2025年度予算について報告され、また、白石会計理事により補足説明がなされた。

3. 会員の入退会

川崎理事長より、回収資料に基づき、会員の入退会について報告された。

4. その他

なし

報告事項（委員会報告）

1. 常設委員会における委員長・委員の交代について

川崎理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員長および委員の交代について報告された。

2. 第17回春季集会について

川崎理事長より、2025年3月8日（土）に、第19回日本統計学会春季集会在筑波大学東京キャンパス文京校舎（遠隔でのオンライン参加も可能）にて開催される旨、報告がなされた。

3. 2025年度統計関連学会連合大会について

川崎理事長より、2025年9月7日（日）～11日（木）に、2025年度統計関連学会連合大会が関西大学千里山キャンパスにて開催される旨、報告がなされた。

4. 日本統計学会各賞について

照井会長より、日本統計学会各賞の募集期間が2025年3月21日（金）までであることが連絡された。

5. その他

なし

報告事項（その他）

1. 研究分科会報告

川崎理事長より、資料に基づき、計量経済・計量ファイナンス分科会、統計教育分科会の各分科会の活動につ

いて報告がなされた。

2. 今後の日程

2025年3月8日(土)午前10時00分

日本統計学会春季集会：筑波大学東京キャンパス文
京校舎(オンライン参加も可能)

2025年6月7日(土)午後1時30分

社員総会：開催形式未定(ハイブリッド形式や対面

形式の場合には、東京理科大学神楽坂キャンパス富士
見校舎を予定)

2025年9月7日(日)～11日(木)

統計関連学会連合大会：関西大学千里山キャンパス

3. その他

なし

8. 被選代議員会報告

一般社団法人 日本統計学会 被選代議員会

日時：2025年3月7日(金)

午後7時30分～午後8時46分

場所：Zoom(ミーティングID: 815 8540 4606)

出席者：照井伸彦(会長)

被選代議員：會田雅人、青嶋誠、足立浩平、荒木由布子、岩佐哲也、岩崎学、大草孝介、大森裕浩、狩野裕、鎌倉稔成、川崎能典、川野秀一、栗原考次、酒折文武、清水誠、瀬尾隆、高部勲、竹内光悦、田畑耕治、椿広計、富田誠、樋口知之、南美穂子、矢田和善、山下智志、山本義郎、美添泰人、渡辺美智子(以上、28名)

選挙管理委員：伴正隆、坂田綾香(庶務理事)

冒頭、照井会長より被選代議員の出席者および選挙管理委員の確認後、開会宣言がなされた。また、照井会長より議事録署名人として川野秀一、清水誠、両被選代議員が提案され、承認された。

審議事項

第1議案 会長候補者の選出に関する件—会長選挙規程第3条

伴庶務理事より、資料に基づき、被選代議員会による会長候補者選出方法について(会長選挙規程第3条より抜粋)および歴代会長について説明された後、提出された会長候補者推薦理由書が提示された。投票の結果、狩野裕氏を会長候補として選出することに決定した。

第2議案 被選理事長の選出に関する件—役員選任規程第2条

伴庶務理事より、資料に基づき、被選代議員会による被選理事長の選出方法(役員選任規程第2条より抜粋)について説明があり、被選代議員名簿が提示された。投票の結果、青嶋誠被選代議員を被選理事長とすることに決定した。

報告事項

1. 次回日程等

照井会長より、役員・代議員協議会は2025年9月に開催される予定であることの報告があった。

9. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月の順に掲載いたします。

修士論文

●(1)海野哲也(2)修士(理学)(3)筑波大(4)Hyperparameter-free sparse estimation of high-dimensional cross-covariance matrices(5)青嶋誠(6)2025年3月

●(1)酒井彰(2)修士(理学)(3)筑波大学(4)Hypothesis testing for PCR coefficients in high-dimensional

data (5)青嶋誠 (6)2025年3月

● (1)衛藤生席 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)Two-dimensional index of departure from quasi-symmetry for square contingency tables with nominal categories (5)田畑耕治 (6)2025年3月

● (1)岡原久也 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)A generalized ordinal quasi-symmetry model and its separability for analyzing multi-way tables (5)田畑耕治 (6)2025年3月

● (1)菅谷優 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)Measures of departure from column odds symmetry and column marginal symmetry in square contingency tables (5)田畑耕治 (6)2025年3月

● (1)土屋海斗 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)A measure of departure from marginal homogeneity via cosine similarity for contingency tables (5)田畑耕治 (6)2025年3月

● (1)徳本真衣 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)Consideration of probabilistic models applicable to BOCD and their applications (5)田畑耕治 (6)2025年3月

● (1)仲田尚生 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)Decomposition of independence for intraclass contingency tables with ordered categories (5)田畑耕治 (6)2025年3月

● (1)丸山みなみ (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)Efficient Bayesian inference for multinomial probit model ensuring covariance identifiability (5)田畑耕治 (6)2025年3月

● (1)飯嶋拓人 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)On window mean survival time with interval-censored data (5)安藤宗司 (6)2025年3月

● (1)若山廉太郎 (2)修士(理学) (3)東京理科大学 (4)Application of Dose-Response Models and Selection of Prior Distribution for Model-Assisted Design in Phase I Clinical Trials (5)安藤宗司 (6)2025年3月

● (1)平木大智 (2)修士(経済学) (3)東京大学 (4)Stochastic volatility in mean: Efficient analysis by a generalized mixture sampler (5)大森裕浩 (6)2025

年3月

● (1)都竹凜花 (2)修士(データサイエンス) (3)南山大学 (4)多群正規分布モデルにおける平均と分散を同時推測する多重比較法 (5)白石高章 (6)2025年2月

● (1)二階壮真 (2)修士(数理学) (3)九州大学 (4)精度構造の推定に基づく共分散構造のロバスト推定に関する研究 (5)佃康司 (6)2025年3月

● (1)室屋秀平 (2)修士(数理学) (3)九州大学 (4)精確な推定を実現するglmnetの設定値選択 (5)廣瀬慧 (6)2025年3月

● (1)赤塚考紀 (2)修士(数理科学) (3)東京大学 (4)High-dimensional third order Edgeworth expansion by Stein's method (5)小池祐太 (6)2025年3月

● (1)高木洋明 (2)修士(数理科学) (3)東京大学 (4)Nonparametric time series classification using deep neural networks (5)吉田朋広 (6)2025年3月

● (1)矢野翔太 (2)修士(数理科学) (3)東京大学 (4)Quasi-likelihood analysis for adaptive estimation of a degenerate diffusion process under relaxed balance conditions (5)吉田朋広 (6)2025年3月

● (1)海老原賢士 (2)修士(工学) (3)東京理科大学 (4)日本語を対象とした語彙の多様性を安定的に測定する方法の構築 (5)寒水孝司 (6)2025年3月

● (1)栗栖章 (2)修士(工学) (3)東京理科大学 (4)経時的に測定された腫瘍縮小率を共変量とするランドマークモデルとジョイントモデルによるイベント発現の動的予測 (5)寒水孝司 (6)2025年3月

● (1)竹谷太陽 (2)修士(工学) (3)東京理科大学 (4)観察研究におけるダブルスコアマッチングのキャリパー幅の検討 (5)寒水孝司 (6)2025年3月

● (1)林雅大 (2)修士(工学) (3)東京理科大学 (4)日本経済に特化した景気センチメントの評価モデルの構築 (5)寒水孝司 (6)2025年3月

● (1)峯脇颯汰 (2)修士(工学) (3)東京理科大学 (4)食品健康影響評価のためのベイズ流のベンチマークドーズ法における用量反応関係モデルの周辺尤度の近似法の評価 (5)寒水孝司 (6)2025年3

月

● (1)塔村俊介 (2)修士 (情報科学) (3)東北大学 (4)DAG連続最適化による縦断データの因果探索と医用ビッグデータへの適用 (5)荒木由布子 (6)2025年3月

● (1)XU Chunxi (2)修士 (情報科学) (3)東北大学 (4)Non-crossing functional quantile regression with measurement error (5)荒木由布子 (6)2025年3月

● (1)及川翔矢 (2)修士 (情報科学) (3)東北大学 (4)関数データに基づくJoint Modelの拡張とアルツハイマーデータへの応用 (5)荒木由布子 (6)2025年3月

● (1)熊野空知 (2)修士 (経営学) (3)東京理科大学 (4)消費者の異質性を考慮した離散時間比例オッズモデルによる広告効果測定 (5)菅原慎矢 (6)2025年3月

博士論文

● (1)福島健太郎 (2)博士 (教育学) (3)東京大学 (4)Development of diagnostic classification models for multiple-choice items (多枝選択項目のための診断分類モデルの開発) (5)岡田謙介 (6)2025年3月

● (1)島田大祐 (2)博士 (教育学) (3)東京大学 (4)Precision of psychometric measurement in intensive longitudinal data (強縦断データにおける計量心理学的な測定精度について) (5)岡田謙介 (6)2025年3月

● (1)岡崎彰良 (2)博士 (数理学) (3)九州大学 (4)Statistical Multi-Task Learning for Robust Task Clustering via Fused Regularization (5)川野秀一 (6)2025年3月

● (1)程宇中 (2)博士 (数理学) (3)九州大学 (4)On Statistical Analysis of Stochastic Differential Equations with Markovian Switching (5)増田弘毅 (6)2025年3月

● (1)吉田航 (2)博士 (数理学) (3)九州大学 (4)Model estimation and selection schemes for efficient and accurate forecasting (5)廣瀬慧 (6)2025年3月

● (1)栗崎正博 (2)博士 (数理科学) (3)東京大学 (4)A New Proof for the Linear Filtering and Smoothing Equations, and Asymptotic Expansion of Nonlinear Filtering (5)吉田朋広 (6)2025年3月

● (1)馬場智也 (2)博士 (数理科学) (3)東京大学 (4)Log-rank test with nonparametric matching (5)吉田朋広 (6)2025年3月

10. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●小西葉子『答えはデータの中にある リサーチャーが永く使えるビジュアル分析手法』KADOKAWA, 2025年2月, 1,980円
内容紹介：データから新たな発見や仮説を見つける方法を最新のデータのビジュアル化を通じて解

説しています。

●Katsuto Tanaka『Brownian Motion, the Fredholm Determinant, and Time Series Analysis』Cambridge University Press, 2025年1月, 125ポンド
内容紹介：詳しくは次のURLを参照してください。
www.cambridge.org/9781009566995

11. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

●国友直人, 佐藤整尚『The SIML Filtering Method for Noisy Non-stationary Economic Time Series』

Springer, 2025年3月, 冊子体: 49.99ユーロ
内容紹介: 所得, 消費, 物価など生活に関わるマクロ経済時系列はTV・新聞などで報道されている. 統計の時系列分析がどう活用できるか, 新たに統計的方法「非定常季節時系列のSIMLフィルタリング」を本書は提唱している.

●江口真透『Minimum Gamma-Divergence for Re-

gression and Classification Problems』

Springer, 2025年3月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: 統計モデルの頑健性を高めるためのガンマ・ダイバージェンスの有効性を, 実データ分析および機械学習応用の具体例と理論背景を踏まえて豊富な事例と厳密な解析に基づき徹底的に詳述した一冊です.

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2025年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います. 会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします. 速やかな納入にご協力をお願い申し上げます. 便利な会費自動払込制度もご用意しています. 次の要領を参照の上, こちらもご活用下さい. また, クレジットカードでの学会費払込も受け付けております. お申込みは学会ホームページよりお願いいたします. (<https://www.jss.gr.jp/fec/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住所を以下にお伝えください. 手続きに必要な書類が送付されます.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました. 謹んで追悼の意を表し, 御冥福をお祈り申し上げます.

永山 貞則 名誉会員

入会承認

岡本雅子, 小船幹生, 佐藤旭, 黒葛和信 (敬称略)

退会承認

相田航, 鷗田正博, 笈悠夫, 島田章, 竹内雄哉, 田中敬一, 津田俊樹, 長岡佑治, 半田瞳, 測上豪支, 本多正憲, 前田修也, 松本美幸, 宮脇典彦, 山添滉弥, 吉川保夫, 渡辺則生 (敬称略)

現在の会員数 (2025年1月28日)

名誉会員	12名
正会員	1,353名
準会員	6名
学生会員	74名
総計	1,445名
賛助会員	18法人
団体会員	7団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りくだ

さい. 以下のような情報も歓迎いたします.

- 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人などをお知らせください。

• 博士論文・修士論文の紹介

(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月をお知らせください。

• 求人案内（教員公募など）

• 研究集会案内

• 新刊紹介

著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください。

• 会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）

できるだけe-mailによる投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒100-8901

東京都千代田区霞が関 1 丁目 3 番 1 号

経済産業省別館11階

独立行政法人経済産業研究所 小西 葉子 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

• 統計学会ホームページ URL：

<https://www.jss.gr.jp/>

• 統計関連学会連合ホームページ URL：

<http://www.jfssa.jp/>

• 統計検定ホームページ URL:

<https://www.toukei-kentei.jp/>

• 住所変更連絡用 e-mail アドレス：

meibo@jss.gr.jp

• 広報連絡用 e-mail アドレス：

koho@jss.gr.jp

• その他連絡用 e-mail アドレス：

shom@jss.gr.jp